

新規事業採択時評価結果（平成23年度新規事業化箇所）

担当課：道路局環境安全課
担当課長名：吉崎 収

事業の概要

事業名	地域高規格道路 都城志布志道路 主要地方道 志布志福山線 志布志道路	事業区分	地方道	事業主体	鹿児島県
起終点	鹿児島県志布志市志布志町安楽～鹿児島県志布志市志布志町安楽			延長	3.2 km
事業概要	<p>都城志布志道路は九州縦貫自動車道と日本有数の畜産地帯を背後地に持つ重要港湾である志布志港とを連絡する地域高規格道路である。</p> <p>志布志福山線 志布志道路は、都城志布志道路の一部を構成し、九州縦貫自動車道と志布志港を連結し、現在事業中の有明志布志道路と一体となって広域ネットワークを形成し、地域活性化を支援する道路である。</p>				
事業の目的、必要性	<p>志布志道路は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道の混雑緩和，交通事故減少 ・九州縦貫自動車道と志布志港並びに都城志布志道路の既着手区間を直結し、物流交通の円滑化を目的とする道路である。 				
全体事業費	90億円	計画交通量	11,900台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
志布志市など沿線自治体で構成される都城志布志道路建設促進協議会より、都城志布志道路の早期整備を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
—

事業採択の前提条件
便益が費用を上回っている。
沿線自治体や地元協議会から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行が可能な環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.0	総費用：71億円 （事業費：70億円 維持管理費：1.0億円）	総便益：140億円 （走行時間短縮便益：117億円 走行費用減少便益：17億円 交通事故減少便益：6.2億円）	基準年 平成22年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.9 (交通量 -10%)	B/C=2.0 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=2.3 (事業費 -10%)	B/C=1.9 (事業費 +10%)	
	事業期間変動	B/C=2.3 (事業期間 -20%)	B/C=1.9 (事業期間 +20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	港湾関連貨物車両と一般通行車両の分離が図られ、混雑緩和が見込まれる。 【渋滞損失時間の改善】 並行区間：約9.9万人時間/年（H20現況）（H17センサス区間No.4114） 削減量：約5.6万人時間/年（約9.9万人時間/年→4.3万人時間/年）	
		事故対策	○	現道の交通量（特に大型車）が減少し、交通事故の減少が見込まれる。 【死傷事故率】284件/億台km（現道区間最大値） ※ 県内平均の死傷事故率（64.6件/億台km）と比べ約4倍 【その他の特徴】大型車混入率が26.7%と高い。 ※ 県平均の大型車混入率12.6%の2倍以上	
	社会全体への影響	歩行空間	—		
		住民生活	◎	第2次救急医療施設（曾於郡医師会立病院）へのアクセス向上 （曾於郡医師会立病院～志布志市の所要時間：約22分→約18分（4分の短縮））	
		地域経済	◎	重要港湾へのアクセス向上 （九州縦貫自動車道都城IC～志布志港の所要時間：約70分→約40分（30分の短縮）） 東九州自動車道と接続し広域ネットワークの形成に寄与する。	
		災害	◎	第2次緊急輸送道路としての機能強化が図られる。	
環境	○	現道の交通量の減少による沿道環境の改善 現況騒音値（昼間）71dB、（夜間）65dB ※何れも環境基準を超過			
地域社会	◎	志布志～都城市間の交流・連携の促進に寄与する。（現況約70分→将来約40分）			
事業実施環境	○	・『かごしま未来ビジョン』において、重点的に推進する事業として位置づけされている。 ・沿線市からも早期整備を求める要望があるなど地元の期待が大きい。			

採択の理由

事業主体である鹿児島県が実施した評価に基づけば、費用便益比が2.0と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
また、この道路整備により、当該地区の渋滞緩和、交通事故の減少、農・畜産物の物流の効率化、高次医療施設へのアクセスの向上、地域社会への効果が期待でき、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。
以上により、本事業を平成23年度新規事業箇所として採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。